

IT融合による価値創造に向けて

「IT融合人材育成連絡会」検討成果報告セミナー

イノベーションは 起こすことができるのか

2014年5月20日

一般社団法人 経営情報学会
横浜国立大学国際社会科学研究院

田名部 元成
tanabu@ynu.ac.jp

IT融合人材の育成と組織能力の向上

IT融合人材

IT融合により価値を創造し、イノベーションを創出する人材

IT融合組織能力

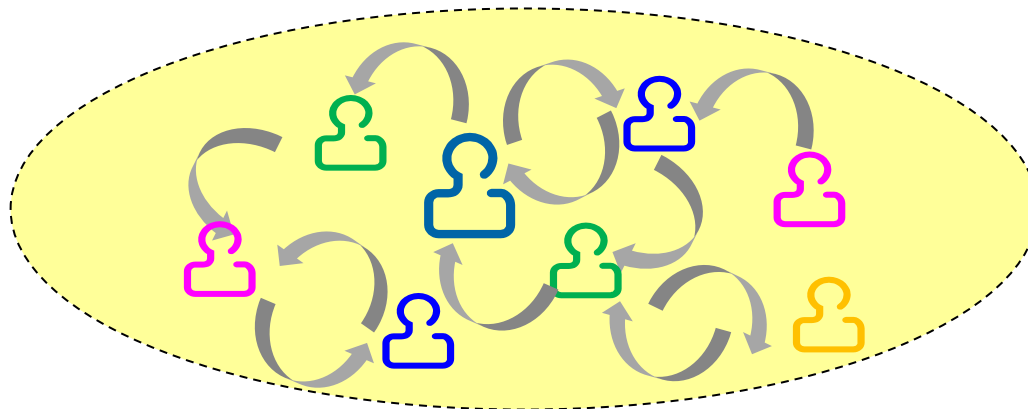
IT融合実現組織(専門性をもつIT融合人材が協働して価値創造を起こす主体となる組織)の活動を円滑に進めるための組織能力

問い「価値創造のプロセスはあるのか？」

IT融合実現組織

専門性を持つ「IT融合人材」が協働して価値創造を起こす主体となる組織(IT融合実現組織)。イノベーション創出に向けた個人と組織間の継続した相互学習が組織自身の「学び」、ステージアップに繋がっていく。

イノベーション創出



- 様々なバックグラウンドや価値観をもつ人材が集う多様性のもとでの活動
- 問題の意味を掘り下げていくためのダイアログを重視した相互の共感
- 失敗を許容し、そこから学習することを繰り返すトライアル＆エラーを実施
- 企業内に留まらず広く外部とコラボレーションするオープンイノベーション指向
- 思いを持った人が最後までやり抜くオーナーシップの発揮

学習する組織

IT融合組織能力

上記イノベーション創出主体(IT融合実現組織)の活動を円滑に進めるための組織能力の向上が重要。

経営者の
リーダーシップの発揮

組織文化・風土の醸成

育成フレームの整備

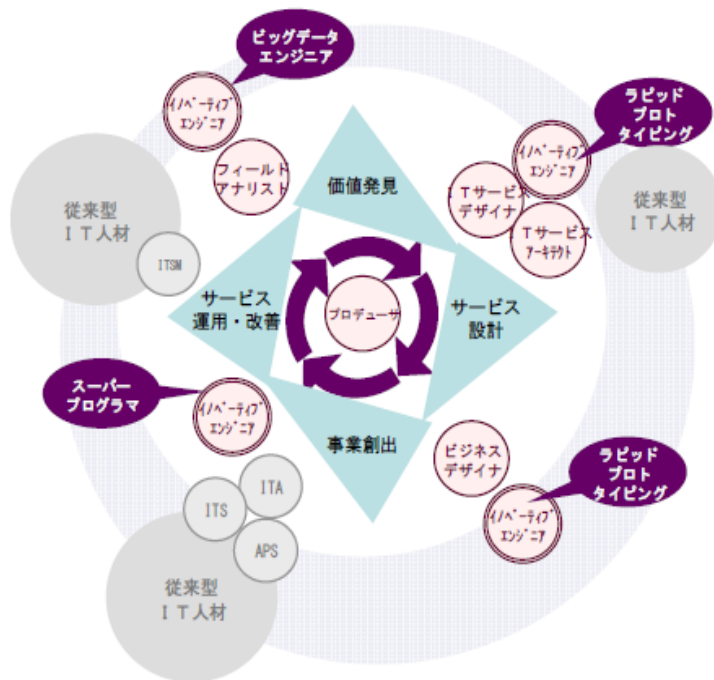
「実践的学習の場」の設置

「実践の場」の創出

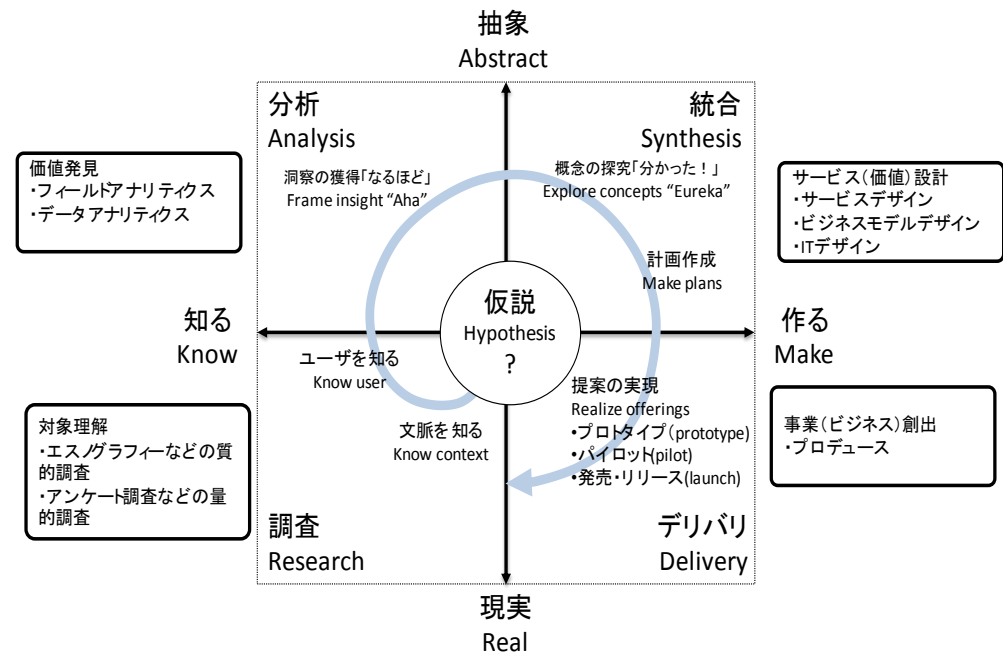
価値創造プロセス：産構審, Kumar

「産構審人材育成WG報告書」の
新製品・新サービス創出プロセス

Vijay Kumar のイノベーションプロセス^[1]



出典：経済産業省



周りの四角のボックスのうち価値発見、サービス設計、事業創出の言葉の下にある明細は、産構審人材育成WG報告書で示されたタスクである

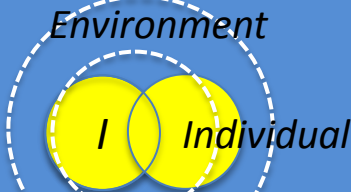
参考文献 [1] Dubberly, H., Evenson, S., Robinson, R., "The analysis-synthesis bridge model", interactions, 15(2), 2008, pp.57-61.

価値創造プロセス： 組織的知識創造プロセス –SECIモデル–

身体・五感を駆使、
直接経験を通じた
暗黙知の獲得、
共有、創出(共感)

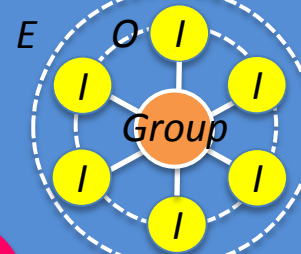
暗黙知

共同化(S)



暗黙知

表出化(E)



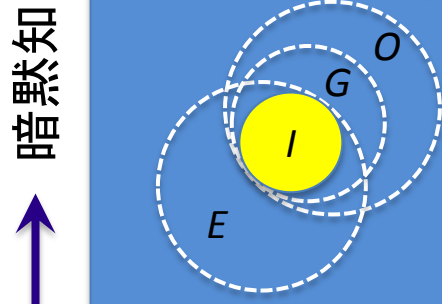
対話・思索・喩えによる
概念・図像の創造
(概念化)

4. 自己の暗黙知の言語化
5. 言語から概念・原型の創造

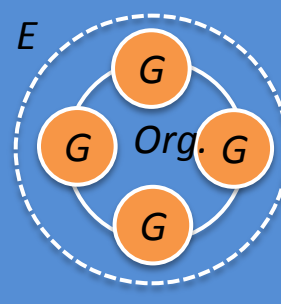
形式知

形式知の組み合わせ
による情報活用と知識
の体系化(モデル化)

内面化(I)



連結化(C)



形式知

6. 概念間の関係と仮説の生成、モデル化、プロトタイピング
7. 形式知の伝達・普及・共有
8. 形式知の編集・操作化、シミュレーション、ICT化

暗黙知

形式知

形式知

形式知を行動を
通じて具現化、
新たな暗黙知として
理解・体得(実践)

1. 組織内外の活動による現実直感
2. 感情移入・同期・気づき・予知・イメージの獲得
3. 暗黙知の伝授、移転

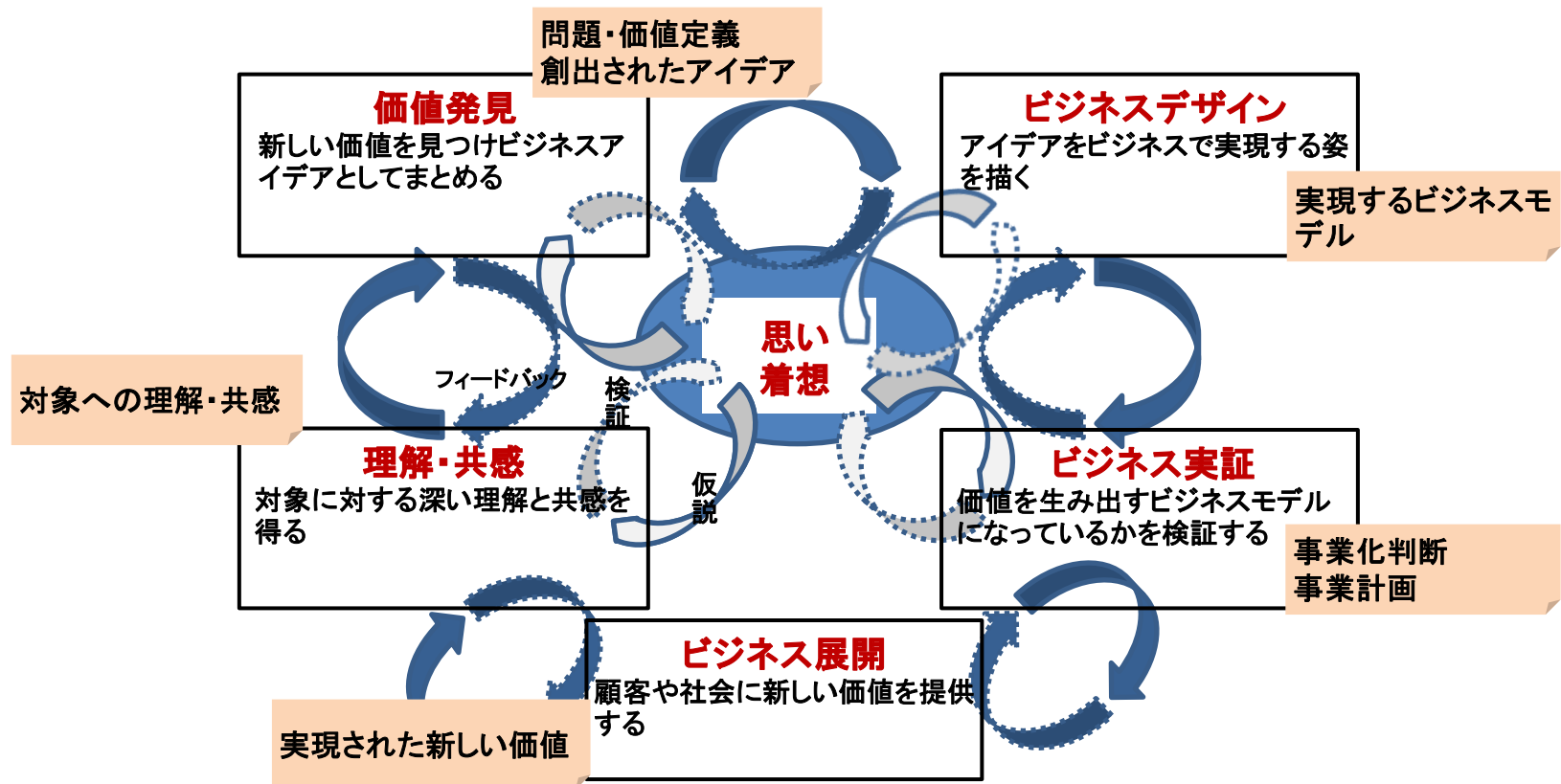
9. 実験・仮説検証を通じた形式知の血肉化
10. 行為のただ中の熟慮と

フィードバック

I = 個人(Individual) G = 集団(Group) O = 組織(Organization) E = 環境(Environment)

出所: 野中郁次郎 (2013) 実践知リーダーシップとアジャイル/スクラム, Scrum Regional Gathering Tokyo 2013.

価値創造プロセス：IT融合



価値創造プロセスのメタフレーム

＜メタフレーム＞ 「理解・共感」は、デザイン思考の「共感」と同じ概念。後半は、「ビジネスデザイン」ではデザインまでとし、「ビジネス実証」でプロトタイピングなどでの仮説検証、ビジネス展開で事業化を行うことにして、分割した。



＜産構審モデル＞ 「価値発見」の範囲が広い。「サービス設計」では上位のビジネスモデル設計が含まれるのが曖昧。



＜Kumarモデル＞ 「仮説」からスタートが特徴。「デリバリ」の範囲が広い。調査・分析が分かれている点はデザイン思考と同じ。

